

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	ハザン省、クアンビン省、クアンガイ省に暮らす少数民族の子どもが整備された教育環境で児童参加型の初等教育を受けられるようになる。 本事業は3期のうちの第1期目である。第1期では、5校の教室建設、4校のトイレ建設、対象地域にある全小学校の1・2年生(計202学級)に対する教材支給などを通じた教室環境の整備を実施した。また、児童参加型授業などの教師トレーニングを実施し、参加した教師がこれらの手法を日常の授業に取り入れ始めている。第2期以降、これら手法が教師たちの間に定着していくことでより上位目標の達成に近づく。第1期終了時のアンケートでは、回答した教師・政府職員の84%が、トレーニングの結果によって「以前より児童が積極的に授業に参加するようになった」と答えた。
(2) 事業内容	<u>1. 子どもにやさしい教育環境の整備</u> 子どもたちの学習環境を改善するため、以下のような活動を実施した。 1. 1 教室建設や設備に関する基準の見直し 現地カウンターパートの建築専門家が既存のインフラガイドラインの見直しを実施し、改訂版を作成した。その改訂版ガイドラインは、関係スタッフおよび省・郡レベルの教育訓練局と共有された。 1. 2 教室建設および教室備品の支給 4校(ハザン省ナムザン、ルンバイ、クアンガイ省マンム、ヌオックラ)に各2教室、1校(クアンビン省バローク)に3教室、合計11教室を建設した。ハザン省の2校では、教員室も設置した。各校は2013年4～5月に建設を開始し、ハザン省ナムザン小学校を除く4校は2013年7～8月に完成。1. 3の衛生・給水設備も同時期に完成した。同4校の教師と児童は、2013年8月中旬の新学年開始より、新しい校舎と衛生設備を利用している。ハザン省ナムザン小学校は、例年より早く始まった雨季や大雨による土砂崩れの影響で建設期間が長引き、2013年11月に完成。2013年12月より、新しい校舎と衛生設備が利用されている。各教室には、黒板、教師・児童用の机や椅子、カーテン等を支給した。 1. 3 衛生・給水設備の設置 1. 2の対象校のうち、ハザン省とクアンガイ省のあわせて4校において、男女別のトイレを設置した。各トイレには給水タンクを設置し、クアンガイ省の2校では、水源となる井戸も設置。ハザン省ルンバイ小学校では、水源となる川が学校から離れているため、電動給水ポンプを設置した。

	ハザン省ナムザン小学校では、学校に近い小川を水源とし、給水パイプを設置した。また、教師、児童に対して設備の使い方を指導した。 1. 4 学習教材の支給 対象地域の1年生・2年生202学級を対象に、主にベトナム語と算数の教師用教材と児童用教材を支給した。また、対象地域の分校88校に教材保管用のキャビネットを支給した(変更報告書提出済)。 <u>2. 教師対象トレーニング(参考資料1. 教師トレーニングリスト、参考資料2. 教育専門家派遣リスト参照)</u> 本事業で指導者としての役割を担うコアチームメンバーを選出し、トレーニングを実施した。コアチームの主な構成員は、対象地域の教師22名、教育訓練省職員8名など。コアチームはトレーニング参加後に、各地域の学校にて各校の教師を対象としたトレーニングを実施した。 2. 1. 子どもにやさしい教育環境の活用 2. 3のベトナム語を母語としない児童サポートの教師トレーニングの追加にともない、第1期での実施は中止し、第2期に延期した(変更報告書提出済)。ただし、教員用ガイドラインは予定どおり作成した。ガイドラインは、第2期のトレーニングにて活用する。 2. 2. 現状についての話し合い、改善策検討 各省で、1・2年生のベトナム語および算数のカリキュラム改善策を検討するためのワークショップを実施した。参加者数は3省で延べ132名。各校では、少数民族の児童の理解度にあわせて授業内容の調整を開始した。 2. 3. ベトナム語を母語としない児童サポート 児童参加型授業に関する教師トレーニングを2回実施。2回の延べ参加者数はクアンビン省およびクアンガイ省のコアチームメンバー72名。ハザン省のコアチームメンバーは、他の事業を通して同トレーニングに参加することができたため、対象外とした(変更報告書提出済)。また、第2言語としてのベトナム語教授に関する教師トレーニングを2回実施し、参加者数は対象3省のコアチームメンバー延べ83名。コアチームはトレーニング参加後、各地域にて対象地の全教師を対象としたトレーニングを実施した。さらに、第2言語としてのベトナム語教授に関する教員用ガイドラインも作成。ガイドラインは、第2期に教師に配布して活用する。 2. 4. 教師間の学びあい
--	--

	日本人教育専門家である佐藤雅彰氏と津久井純氏による、公開授業や教師同士の学びあいなどに関するトレーニングを2回実施した。1回目はハノイで、2回目はクアンガイ省で学校を会場に実施。対象3省のコアチームメンバーを中心に、延べ99名が参加した。コアチームの教師22名には、ビデオカメラを自己資金で支給し、トレーニングで授業観察でのビデオカメラの活用方法を指導した。教師間の学びあいをけん引するモデル校として選出された各郡1校ずつ計5校の小学校(ハザン省ナンマ、タンティエン、クアンビン省ザンホア、クアンガイ省バト、ソントウオン)においては、プラン職員とコアチームメンバーが中心となり、学校レベルでのトレーニングも実施。参加者数は延べ301名(変更報告書提出済)。
(3) 達成された成果	直接裨益者数:7,710人(対象15コミューン、110校に通う6-10歳の児童7,053人、トレーニングを受けた教師629人、教育訓練局職員28人) 間接裨益者数:63,088人(対象15コミューンの全人口) 指標に基づく達成度は、以下のとおり。 1) 子どもにやさしい教育環境の整備 -新しく建設された教室で授業を受けられるようになった児童の数: 5校11教室に通う児童 合計294人(94%達成) -新しい学習教材を活用できるようになった児童の数: 対象15コミューン、110校の1、2年生 合計2,868人(92%達成) ※いずれも100%に達していないのは、対象人数が変更になったため。 2) 教師対象トレーニング -トレーニング後、少数民族の児童向けに授業内容を調整した教師数: 15コミューン、110校のすべての教師 629人(131%達成) -学びあい公開授業を実施した回数: 対象15コミューンの基幹校22校で各3回実施(150%達成) -学びあいを理解し、各コミューンで継続参加する教師の数: 対象15コミューン、110校のすべての教師 629人(131%達成)
(4) 持続発展性	当事業では、事業終了後も効果が継続して維持されるよう、次のように事業を実施した。 1. 教育環境の整備 教室・トイレ建設においては、地域の人民委員会と住民は、土地整備や旧校舎解体の労働力提供など、建設準備段階から大きな役割を担った。完成後の維持管理責任を担う意識の定着を図るため、地域住民から工事の進捗管理の担

	当者を選出し、施設の維持管理方法の習得も求めた。当事業で支援した設備の維持管理責任は各コミューンの人民委員会および学校が担うため、維持管理責任を明記した引き渡し証にて署名を取り交わした。また、教材については、各校の学校管理職に必要教材の再確認を行った上で支給し、教材保管用キャビネットの支給とともに各校における管理体制を整備した。 2. 教師や保護者の能力強化 本事業では各省の教師代表や教育訓練局職員からなるコアチームが中心となり、トレーニングで習得したスキルや知識を各地域の教師に広める方式とした。当団体はコアチームの能力向上と、コアチームによる各校への指導の支援にあたることで、継続的な教師間の学びあいへとつなげている。また、第1期で作成した子どもにやさしい教育環境の活用に関するガイドラインおよびベトナム語教授に関するガイドラインを第2期以降に活用することで、当事業の成果を持続することが期待される。
--	---